

# 令和元年度日本水産学会 中国・四国支部例会 プログラム

日程 令和元年10月26日(土)13:00～10月27日(日)13:00  
(受付開始 12:00)

## 場所

ワークピア広島3階蘭ABC(10月26日)、4階芙蓉(10月27日)  
〒732-0825 広島県広島市南区金屋町1-17

## 日程

10月26日(土)

11:30～12:30 幹事会

12:00～ 受付開始

13:00～15:18 一般口頭発表

15:30～16:30 一般ポスター発表・高校生ポスター発表

16:30～17:00 総会・表彰式

18:00～20:00 懇親会

10月27日(日)

9:30～受付開始

10:00～13:00 令和元年度日本水産学会中国・四国支部例会・瀬戸内海水産  
フォーラム合同シンポジウム

13:00～13:05 開会挨拶

13:05～13:17 O A 1 ブリにおいてアラニンおよびプロリンが摂餌行動およびNPY発現量に及ぼす影響

◎泉水彩花・益本俊郎・深田陽久（高知大農）

13:17～13:29 O A 2 有害珪藻 *Asteroplanus karianus* の増殖における鉄要求性の検討

◎神尾 郁・内藤佳奈子（県広大生命環境）・坂本節子（水産機構瀬水研）・今井一郎（琵琶湖博/北大院水）

13:29～13:41 O A 3 透明標本を用いたキジハタ仔魚の開腔観察と形態異常防除への応用

◎下村知恵・原田 樹（福山大生命工）・辻村浩隆（大阪環農水研）・有瀧真人（福山大生命工）

13:41～13:53 O A 4 高知県四万十川のアユにおける細菌性冷水病の影響、特に産卵場での感染拡大について

◎山下はづき（高知大院）・佐野朝咲（高知大農）・山本航大（高知大農海）・堀岡喜久雄・大木正行（四万十川中央漁協）・辻祐人（四万十市役所）・今城雅之（高知大農海）

13:53～14:05 O A 5 高知県野見湾の養殖カンパチにおける $\alpha$ 溶血性レンサ球菌症の新たな問題について

◎池田拓司（高知大農海）・森光一幸（大谷漁協）・今城雅之（高知大農海）

14:05～14:17 O A 6 高知県鏡川下流堰の遡上アユにおける細菌性冷水病菌感染拡大のリスク評価

◎小川晴暉（高知大農海）・山下はづき（高知大院）・高橋 徹・片岡榮彦・大崎靖夫（鏡川漁協）・今城雅之（高知大農海）

14:17～14:30 休憩

14:30～14:42 O A 7 海藻麴の調製と性状解析

◎内田基晴（水産機構瀬水研）・秀島宣雄（丸秀醤油）・荒木利芳（三重大伊賀拠点）・村上史康（岡山水研）・杉浦義正・村瀬昇（水産機構水大校）・飯田愛実（海士町）

14:42～14:54 O A 8 氷蔵におけるムール貝 (*Mytillus galloprovincialis*) の味関与成分の変化

◎平林眞弓（県立広島大院・山陽女子短大）・岡本 尚（山陽女短大）・谷本昌大（県立広島大）

◎：35歳以下の表彰審査対象者

一般口頭発表 B会場

- 13:41~13:53 OB1 イガイの体液性状に及ぼす大気暴露の影響  
○半田岳志・荒木晶・山元憲一（水産機構水大校）
- 13:53~14:05 OB2 クサフグ dead end ノックダウン宿主を利用したトラフグ配偶子生産  
○吉川廣幸・井野靖子（水産機構水大校）・吉浦康寿（水産機構瀬水研）
- 14:05~14:17 OB3 干潟のクロダイの食性に变化はあったのか？  
-アサリが多獲された1970-80年代 vs.獲れなくなった現在との比較：砂浜性二枚貝資源への負のスパイラル-  
○重田利拓（水産機構瀬水研）
- 14:17~14:30 休憩
- 14:30~14:42 OB4 人工海藻草の隙間の広さとアイゴ稚魚の採餌行動及び被食リスクの関係  
○野田幹雄・上原博志・村瀬昇（水産機構水大校）
- 14:42~14:54 OB5 江の川河口域におけるアユ仔魚の分布  
○寺門弘悦（島根水技セ）・高橋勇夫（たかはし河川生物調査事務所）・  
曾田一志（島根県農林水産部水産課）・安木茂（島根県農林水産部漁港漁場整備課）
- 14:54~15:06 OB6 瀬戸内海西部に來遊したナルトビエイの脂肪分定量による栄養生態学的検討  
神鳥浩典（広大院生物生産）・泥谷明子・民法紗希・山崎大海（広大院生物圏科）・  
和西昭仁（山口水研セ）・坂井陽一（広大院統合生命科）・飯島憲章・  
○橋本博明（広大院生物圏科）
- 15:06~15:12 OB7 湖沼における栄養塩と生態系の長期変化に関する文献レビュー  
○大久保卓也（滋賀県大環境）・鈴木隆夫・藤岡康弘・森田尚・  
孝橋賢一（滋賀水試）・中嶋拓郎（滋賀県水産課）

- P1 イイダコおよびマダコにおける *vasa* 遺伝子の単離と発現解析  
○木下春哉・井野靖子・近藤昌和・吉川廣幸 (水産機構水大校)
- P2 カキ類ヘモリンパ液の二酸化炭素分圧の推定  
○半田岳志・荒木晶・山元憲一 (水産機構水大校)
- P3 マダイ種苗の選別サイズと飼料による成長差  
○深田陽久・泉水彩花・芦田ひなた・藤田瑞樹 (高知大農)・平井 真・森田沙知 (山崎技研)
- P4 ワカメ養殖漁場における低コスト表層水温ブイの試作  
○手塚尚明・吉田吾郎 (水産機構瀬水研)・多田篤司 (徳島農水総技セ)・棚田教生 (徳島県農林水産部)
- P5 河口域のクロダイとキチヌの年齢と成長に関する研究  
○齋藤晶 (広大生物生産)・斉藤英俊 (広大院統合生命科)
- P6 河口域におけるクロダイ、キチヌの食性の違いに関する研究  
○上廻怜央 (広大生物生産)・斉藤英俊 (広大院統合生命科)
- P7 遺伝的解析による国外外来種チュウゴクスジエビと韓国産スジエビの侵入経路の解明  
○小笠原長護 (広大院統合生命科)・今井 正 (水産機構瀬水研)・  
斉藤英俊 (広大院統合生命科)
- P8 殺藻細菌 *Pseudoalteromonas* sp. A25 株の野生株と変異株の殺藻活性の比較  
○益 七瀬 (福山大院)・北口博隆・満谷 淳 (福山大生命工)
- P9 マダイへのセレノネインの給餌投与による抗酸化機能向上  
○下川祐太郎・阿部香菜子・大浦真美・山本真奈江 (水大校)・  
安藤仁・東福拓磨 (海洋大院)・山下倫明・近藤昌和 (水大校)
- P10 キハダ血合肉の食品素材化  
大浦真美・○下川祐太郎・阿部香菜子・山本真奈江 (水大校)・  
安藤仁・東福拓磨 (海洋大院)・山下倫明 (水大校)

高校生ポスター発表 C会場 (15:30～16:30)

HP1 干潟底生生物の調査研究Ⅱ～尾道産アサリの資源回復を目指して～

○實政寧桜・福留吾夫・渡邊大智・福本悠太 (学校法人尾道学園 尾道高等学校 科学部)

HP2 横川吸虫等の寄生虫リスクのない安心・安全な生食用海水養殖アユの開発

○和泉温樹・山縣弘汰 (香川県立多度津高等学校 海洋生産科)

HP3 水中ドローンの開発

○南 日向・谷 星輝・廣田飛輝 (徳島県立徳島科学技術高等学校 海洋科学類)

HP4 旭川を天然ウナギがヤバいほどいーる川に！

○大平涼太 (岡山理科大学附属高等学校)

HP5 神石高原町におけるナマズ養殖の現状

○山田善将 (広島県立油木高等学校)

## 1980年代以降の生物相の変化と適応策

日 時 : 2019年10月27日(日) 10:00-13:00

場 所 : ワークピア広島(芙蓉) 〒732-0825 広島市南区金屋町1-17

開催挨拶 生田 和正(日本水産学会中国・四国支部長) 10:00~10:05

趣旨説明 加藤 修(水産機構瀬水研) 10:05~10:10

### 話 題

座 長 吉田 勝俊(水産機構瀬水研)

1. 豊後水道底層水温の十年規模変動と西部瀬戸内海の栄養塩環境 10:10~10:30

加 三千宣(愛媛大沿岸研セ)

2. プランクトン・ベントスの分布変化

1) 播磨灘における海域環境の変動と植物プランクトンの応答 10:30~10:50

西川 哲也(兵庫水技セ)

2) 動物プランクトン 10:50~11:10

藤原 建紀(京大名誉教授)

3) 瀬戸内海におけるベントスの変化 11:10~11:30

辻野 睦(水産機構瀬水研)

休 憩 11:30~11:40

座 長 吉田 吾郎(水産機構瀬水研)

3. 瀬戸内海における漁業資源の変動 11:40~12:00

河野 悌昌(水産機構瀬水研)

4. 環境変動への適応策

1) 徳島県のワカメ養殖が直面する環境変動とその適応策 12:00~12:20

多田 篤司(徳島農水総技セ)

2) 長崎県福江島周辺海域におけるハタ科魚類の漁獲量変化と海水温との関係、  
およびその有効利用に関する活動の紹介 12:20~12:40

中川 雅弘(水産機構西海水研)

5. 総合討論 加藤 修(水産機構瀬水研) 12:40~12:55

閉会挨拶 生田 和正(日本水産学会中国・四国支部長) 12:55~13:00

**開催趣旨：**1980年代以降、「レジームシフト」といわれている生態系の大きな変化が、我が国周辺海域で認められている。瀬戸内海においても、漁獲量の減少及び漁獲対象種の変化等が報告されているものの、これらの変化が「レジームシフト」と呼ばれるものに関係した現象であるかについては十分整理されていない。本シンポジウムでは、1980年代以降におけるプランクトンや魚類等の出現傾向の変化等を整理して、他海域におけるレジームシフトとの類似性について検討するとともに、近年の環境変動による漁業・養殖業等への影響を緩和するために現在実施されている取り組みを紹介し、生物相の変化を踏まえた今後の研究方向を考えるための意見交換の場としたい。